

トキハ産業(株)

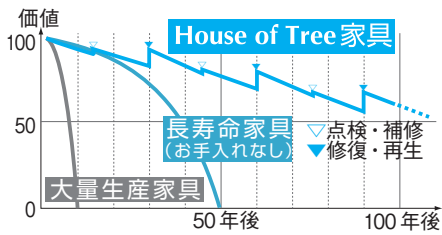
100年を超えて使い継がれる家具の新しい仕組み



独立行政法人 中小企業基盤整備機構 経営支援部
地域活性化支援チームアドバイザー ● 佐良士 励

新連携

ハウスオブツリー®の家具



「いい家具は本来、使い捨てであってはならない」——その思いを込めて「未来のビンテージ家具」を製作するトキハ産業(株) (大阪市、藤川龍磨社長)。

同社が目指すのは、修理・再生が容易で長く使い継げる良質な家具作りである。それは百年、二百年と、世代を超えて使い継がれることを前提とする。

未来のビンテージ家具の購入者は、定期的な点検・補修を受けながら使用する。仮に不要になった場合も買取制度を利用できる(これを同社では「お里帰り」と呼ぶ)。お里帰りの家

具は、修復・再生が施され、また違う使用者に再販売される。この一連の仕組みを「ハウスオブツリー」と名付けている。直訳すると「木のお家(実家)」。

同社はハウスオブツリーの家具それぞれの実家の役割を果たすことで、長く使い継げることを実現しようとしている。どんなに長寿命と呼ばれる家具でも、適切なメンテナンスをしないと五十年程度で使用限界が訪れると言われている。それを百年、二百年と使い継ぐための仕組みがハウスオブツリーである。

長寿命・高品質、それを証明する一枚の銘板

家具に百年を超える寿命を持たせるには、まず頑丈さが求められる。

それには十分な強度を保つ設計であることもさることながら、耐久性に優れた天然木の無垢材にこだわり、最適な木材乾燥条件により強度を高め、材料の接ぎ方にも制限を設ける。金

物で接合する場合には将来的な腐食も考慮される。

また、補修やセルフメンテナンス(拭き掃除やオイル塗布など)が容易であるためにも、デザインはシンプルなものとしている。さらに、シックハウス症候群などの原因となる人体に有害な揮発性有害物質を発生させないことを厳守している。すなわち、「天然木を使い」①健康にやさしく、②環境に配慮した、③メンテナンスもできる、④長寿命」の四つが「ハウスオブツリーの家具」の商品特長となる。

このような特長を持つ「ハウ

企業データ



藤川龍磨社長

本社	大阪市都島区大東町 2-17-9 ☎ 06-6928-8265
業種	木製家具製造・販売
創業	1947年4月
設立	1962年8月
資本金	3000万円
年商	15.6億円(2014年7月)
従業員数	80名

「スオプツリーの家具」であることを証明するのは、商品に取り付けられた一枚の銘板である。これは大学教授など専門家で構成する第三者機関「品質評価委員会」による認定証で、シリアル番号が刻まれている。販売者は顧客ごとのカルテを備え、その番号で家具の生涯（誕生から販売、メンテナンス、修復・再生など）を一元管理できる。

シックハウス問題を契機に環境志向推進

同社は長らくオフィス家具業界に身を置いてきた。得意とするのはメラミン化粧板を使った会議テーブルなどの天板製作で、本社は大阪市内にあるが、生産工場は二つとも兵庫県内にある。藤川社長が創業者である父から事業を引き継いで五年目となる一九九八年に一つの転機が訪れた。新築住宅などの建材に使用される接着剤や塗料中の化学物質が原因で病気になるというシックハウス症候群が社会問題化し始めたのである。「健康



この銘板が家具の品質を保証し「戸籍」の役割を果たす

住宅」をキーワードに住宅業界がその対応に積極的になり出す一方、家具業界の動きは鈍いように社長の目には映った。同社はこの時から「有害物質をまったく含まない家具」づくりを理念とするヨーロッパの家具メーカーと取引を開始する。セミオーダーメイド品のため、受注から納品まで長い時で半年以上もかかるのがネックではあったが、同社はこの取引を十年間続け、この間に環境に配慮した事業の将来性に確信を持ち始める。

二〇〇四年には「世界最高水準の環境低影響企業」を目標にISO14001の認証を取得。以後、全社的な環境負荷低減の取り組みを今日まで続けている。「百年安心して使い続ける長寿命家具」のコンセプトによる独自性ある環境志向の事業として国の新連携事業認定を受けたのは、一〇年三月のことである。中小機構による事業計画のブラッシュアップはそれ以前に半年以上にも及んだが、「茫漠たる将来計画を精緻化する作業は初

めての経験であり、それも大変だったが、何よりこの間にプロジェクトマネジャーの度重なるアドバイスにより新事業推進の性根が座ったことが大きかった」と社長は語る。

循環型消費社会の実現を目指して

「ハウスオブツリー」の家具は、同社が大阪府内に有する二つの店舗（ハーモニックハウス枚方店、同都島店）、もしくはWEBサイトで見ることができ。店舗には、より自然に近いモノに価値を見出す環境意識の高い人たちに交じって、喘息やアレルギーの子供がいる家族連れが多く来店する。わずかな化学物質でも過敏に反応してしまう子供の場合、量販店にある安い「使い捨て家具」の多くは体に合わないのだという。

また、枚方店は西日本最大級の家具街といわれる大阪・枚方家具団地の真ん中に位置している。一昨年オープンした木工教室などを行う「家具町工房」の人気もあり、こちらは土日に大変な賑わいを見せる。

今後の事業課題を社長にうかがうと「ハウスオブツリーの理念をいかに広げられるか」との答えが返ってきた。実は同社がこれまで育ててきた理念を他の事業者にまで広めようとする取り組みがすでに始まっている。

一般社団法人ハウスオブツリー協会は同社が立ち上げに協力し一二年に設立された。現在、製品認定・銘板の発行やカルテによる履歴管理をはじめ販売店・メーカーの認証や支援、社会への啓発や家具職人の育成など多岐にわたる活動を行っている。同協会の理事を務め建築士でもある山口勝己氏は「ハウスオブツリーの理念は、使い捨て家具が当たり前の風潮に一石を投じるもの。理念に共感いただけの販売店や家具メーカーの方々と一緒になって『新しい長寿命家具』の認知度を高め、循環型消費社会実現への活動を盛り上げていきたい」と、協会の使命を語る。

●お問い合わせ先

中小企業基盤整備機構
経営支援部経営支援課

☎03-5470-1194